

きずな(絆) No.21 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間と被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■「支援隊のアイデアで避難所にも笑顔が」 岐阜民医連



避難所で介護士が中心となって、足浴・髭剃り隊を結成しました。これが大変好評で、高齢者の喜ぶ顔は感動的でした。また、子供達を誘ってサッカー大会を開催し、久しぶりに身体を動かせたと喜んでいました。被災者から聴く話は悲惨でしたが、少し笑顔をみることができてほっとしました。避難所では子供からお年寄りまで長期にわたる避難生活が余儀なくされており、身体的なケアだけでなく心のケアが求められているようです。今後は、介護職員やリハビリ職員の支援が求められます。（「東日本大震災 岐阜民医連支援ニュース No.9」 3/25 より）

■「自分にできることを見つけて得意分野を発揮」 富山民医連

富山民医連の現地で奮闘している医師、看護師からの報告です。「民医連の支援チームは、単なる巡回診察だけに留まらず、洗髪、足浴・爪切り、リハビリ（体操）、トイレ掃除、子供達とのサッカーなど、それぞれが自分にできることを見つけて得意分野を発揮していました。改めて民医連の組織力のすごさを感じました（医師）」、「津波で1階が全滅している地域で、民医連の旗を掲げて一軒一軒地域訪問をしました。昨日からやっと水道が通ったとのことですが、ガスはまだのようです。坂病院ですと自宅を伺うと、『坂さんありがとう』との言葉や、民医連の旗を見て手を振ってくれたり、坂病院が地域に愛されていることを羨ましくさえ思いました（看護師）」

（「東日本大震災 富山民医連支援ニュース No.10」 3/26 より）



■「支援物資コーナーで米1合からの支援」 福井民医連



地震発生直後から「みどり薬局」は、支援物資の提供を呼びかける運動に取り組んでいます。待合室に設置された「支援物資コーナー」には、被災地の食料品不足を見越して「米1合ずつお願いします」の呼びかけを張り出しました。「10kgも20kgも無理だけど1合なら提供できる」と好評で、多くの支援米が寄せられています。「被災者のみなさんへ」と書かれたコーナーには、メモ用紙に一言メッセージを送ることを呼びかけています。「早くメッセージをいっぱいにして、支援に行く時に持っていきたい」と話し合っています。（福井民医連「東日本大震災支援ニュース No.5」 3/22 より）

<おしらせ> ****

○支援ニュースや新聞掲載記事(全国紙も東京本社版では掲載されません)など、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
